

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年2 月29 日

事業所名 ウィズ・ユー羽曳が丘

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	67%	33%	クールダウンの部屋を児童に周知している	椅子を購入し、適切な療育空間を維持している。
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%		適切である。4月よりより一層手厚く療育できるように推し進めている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	33%	67%		トイレには手すりがあるが、玄関に段差があり、今後バリアフリーを検討したい。現在、バリアフリーが必要な児童はいない
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	83%	17%		振り返りを毎日行い、支援の質を向上させています。もう一歩踏み込んで話し合い、改善させたい
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	67%	33%		常に関連できるようにしている。項目ごとに丁寧に対応をすすめていきたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	0%	100%		今期からの自己評価表になります。集計が終わり次第公開します。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%		行っておりません。今後検討いたします。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	50%	50%		研修を受ける対象を今後増やしていきたいと考えております。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%		アセスメントを適切に行い、計画を作成しています。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	50%	50%		使用しています。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%		行っています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%		微細運動と粗大運動、個別集団と様々に工夫しています。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%		平日は、限られた時間の中でコンパクトに療育を行い、休日は、お出かけプログラムなど特別なことを行っています。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%		必要に応じて集団、個別と組み合わせています。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%		その日の主になる支援員を決め、役割を決めて支援を行っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%		ケンカやトラブルはその日のうちに解決し、職員間では翌朝に話し合いを行い記録もとっている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	67%	33%		行った支援について記録し、コメントを残している。できなかった場合は戻り、児童のペースに合わせて支援を行っている
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%		行っている	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100%	0%		行っています。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%		参画しています。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	67%	33%		児童や保護者をとおして情報共有を行っています。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	100%		現在、医療的ケアが必要な児童は不在であるが、当初となった場合には連絡体制を整えたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	0%	100%		保育所や園との連携がなかなか取れず、保護者を通して情報共有を行っています。今後、連携を強めていきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0%	100%		まだその年齢の児童がおらず、今後の検討課題としたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	50%	50%		専門機関の研修や助言を受けているのが、一部の職員となっています。今後、受けられる職員の幅を広げていきたい
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%		今までそのような機会がなかったが、あれば積極的に参加したい
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0%	100%		今までそのような機会がなかったが、あれば積極的に参加したい
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%		特に気になる場合は懇談を行い、日々の成長については送迎時に随時伝えている
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	33%	67%		必要な場合には直接お話しをしたり、絵カードを渡したりと支援の方法を伝えています。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%		契約時に必ず伝えています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%		行っています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%		今まで機会を設定できていませんでした。機会を見つけて開催したいと思います。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	83%	17%		適切に対応しています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%		予定表は発行し、進行などの情報は、SNS等で保護者へ送信しています。
	35	個人情報に十分注意している	83%	17%		十分に注意している
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		行っている。より一層配慮していきたい。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	100%		今まで機会を設定できていませんでした。機会を見つけて開催したいと思います。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	50%	50%		策定中です。 全てのマニュアルが策定された際周知します
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%		防災センターへの見学や、施設での避難訓練を行っている
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	33%	67%		社内研修を含め、研修の機会を全ての職員にまで増やしたい
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%		計画書に記載し、組織的に決定を行い、可能な限り使用しない支援を模索している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%		医師の診断書がある程のアレルギーのある児童は不在であるが、必要な児童が入所の際は、指示書に基づく支援を行う
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%		ヒヤリハットはいつでも誰でも閲覧可能で職員間で共有している